



葉画家 群馬直美の「葉っぱアーカイブ」vol.17 2022年7月

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

絵と文 群馬直美

命の循環が心を潤すー落ち葉くん大活躍ー

下仁田ネギを描いている。

下仁田町馬山の大澤貴則さんが、伝統農法で育てている下仁田ネギ。

その15カ月を追って描く、という壮大な計画を立てた。

そんなわけで今、立川の倉庫アトリエに、モデルの下仁田ネギ坊主くんがいる。くん付けで呼びたくなるほど、

まだ小さくてかわいい。描くための資料作りを終えた私。

「そうだ。ネギ坊主を鉢に植えて毎日観察しよう」

と近所のホームセンターへ向かった。そこで、あろうことか〈腐葉土〉に釘づけになってしまった。

腐葉土は、積もった落ち葉が発酵してできた土。落ち葉の進化した姿だ。

前回(2月18日付)書いた『街路樹サミットin立川』でも、街路樹の落ち葉問題は大きな課題となっていた。

最近では、学校に寄せられる苦情の多くが、校庭の木の落ち葉と騒音なのだそうだ。

街路樹だけでなく、校庭の木もぶつ切りにされているという。

そんな木の姿を見て育つ子供たちに、命を大切にすることは育まれていくのだろうか。

社会全体から命の尊厳の心が薄れている。その象徴がぶつ切りの街路樹なのではないか。

全国から集った約140名の人たちは、真剣に頭を抱えた。

35年間、葉っぱを見つめ描いてきた私にとって、落ち葉は宝石のように輝いている。

落ち葉を描くと、心が落ち着く。それは、新緑や若葉や紅葉を描くときは、全く違う感覚。

落ち葉の息づかいは、とてもゆったりしている。描いているうちに、こちらの呼吸も深く長くなってゆく。

先日、世田谷美術館で葉っぱワークショップを行った。タイトルは、『巡る命の循環ー落ち葉〜息吹ー』。

参加者22名を前にして、落ち葉の話をした。

「私たち人間も、1本の木。1年を通して経験という葉っぱを付けては、落としていく。

楽しい経験もあれば、辛く苦しい経験もある。

自分の中に積もった経験という落ち葉を、無駄なもの価値のないものとして捨て去ってしまうのではなく、

ふかふかの腐葉土にしていこう。腐葉土のようにふわふわになった心には、たくさんの新芽が吹き出す。

腐葉土を作るには、米ぬかか水分が必要。私たちにとっての米ぬかは、自分の中に新しい風を吹かすこと…」

落ち葉をゴミとするか、豊かな資源とするかで、社会の、そこで暮らす1人1人の心の潤いが違ってくる。

ホームセンターで、〈腐葉土〉を手にした私は、ふかふかになったみんなの心に触れているような気がした。

さあ、アトリエには下仁田ネギ坊主くんがいる。

私の中に新しい風が吹く。新しい風を世界中の人たちに届けよう。

(上毛新聞2016年4月15日掲載『オビニオン21視点』より)

表紙の絵「ネギの花」

見て! 感じて! ネギ坊主パワー

下仁田町大澤さんの畑にて 2016.4.21収穫

板/テンペラ size:1025mm×560mm

(制作期間: 2018年7月4日ー 11月7日) © Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神ーこの世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の實の美術館』他。東京都立川市在住。
<https://www.wood.jp/konoha/>

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2022年7月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp